Safety Report セーフティルポ　高齢者

高齢者が少しでも長く安全に運転を継続できるよう地域一体で支援

大分県竹田市では、日常生活でクルマを利用する 65 歳以上の市民を対象に「いきいき運転健康教室」を実施している。この教室は、高齢者が少しでも長く安全に運転できるようにサポートをしようと始めたものだ。認知症予防や安全運転に対する意識を高めてもらうための同市の取り組みを紹介する。

「いきいき運転健康教室」に携わっている竹田市高齢者福祉課と同市地域包括支援センターの皆さん。
前列左から２番目がセンター長の小林慶さん、前列右から２番目が保健師の坂本信江さん

山間部に暮らす高齢者は生活する上でクルマが欠かせない

「いきいき運転健康教室（以下、教室）」は竹田市と同市地域包括支援センター（以下、包括センター）が主催している。
教室が始まった経緯を包括センターの坂本信江さんは次のように説明する。「竹田市は山間部に位置し、クルマの運転を続けている高齢者が少なくありません。クルマを運転しないと買い物はもちろん、病院にも行けないからです。しかし、その一方で、運転に問題を抱える高齢者が多数いる地域の実態も報告され、竹田市地域医療推進協議会の中にある認知症予防支援委員会で、高齢ドライバーに対して何らかの支援が必要であるとの提言がありました。そして、新たに認知症高齢者等自動車運転作業部会を立ち上げて具体策を検討し、安全に運転を継続できるようにサポートするための教室の実施が決まりました。教室では参加者の皆さんに自分の弱いところを知っていただき、私たちがそれを補うための支援をすることが目的です」。
教室は 2019 年 11 月からスタートし、内容は以下の通り。
①健康チェックおよび体力測定
②運転技能検査（シミュレーター体験など）
③脳の健康測定（のう KNOW）
④講話「認知機能を保つために」
（全２時間）
教室の運営は竹田市と包括センターの職員、保健師、認知症疾患医療センタースタッフ、大分県警察本部と竹田警察署の警察官が担当している。参加の案内は包括センターの広報誌と地域の回覧等による公募、ケアマネジャーや高齢者支援相談員の声かけに加え、地元の自動車学校から、運転免許更新時の認知機能検査の結果に基づいて紹介され、参加するケースがある。2022 年 10 月までに５回開催され、87 人が参加した。

「のう KNOW」の活用で参加者が自分の脳の健康を意識するようになる

「これまでは、認知機能の確認に問診と時計の描画や立方体の模写を行っていましたが、これだけでは説得性に欠けていました。そこで、2020 年から脳の健康測定として『のう KNOW』（P4 参照）を取り入れることにしたのです。検査の後に脳年齢やスコアが数値として出るので、私たちも説明がしやすくなると思いました」と坂本さんは導入のねらいを話す。
「タブレットの操作に慣れていない方は検査に苦戦する傾向があり、スコアはあくまで目安だと参加者の皆さんには伝えています。スコアとして可視化されることで、脳の健康を意識していただけるようになり、維持向上のために『がんばろう』という気持ちにさせる効果があると感じています。再チャレンジを希望する方が多いので、その機会も用意しています。また、検査の時は参加者一人にスタッフが一人付き添うので、本番前の練習の様子を観察しているだけでも、検査内容への理解度を知ることができ、私たちがフォローしていく上での重要な情報となります」。

「いきいき運転健康教室」では「のう KNOW」を活用して、参加者の脳の健康測定を実施している

教室で測定された様々な結果は記録して、参加者にフィードバックするとともに、スタッフ間でも共有。当日、参加者に付き添った保健師や包括センターのスタッフら担当者が話し合い、測定結果などを踏まえて、個別に対応方針を検討する。
「竹田市では、市内の各所で高齢者向けの運動教室を定期的に実施しています。『のう KNOW』のスコアが低い方には、運動教室や自治会単位で行われる生きがい・健康づくりを推進している『おしゃべりサロン』などの参加を提案します。提案した時は消極的だった方も行くと楽しんでいただけるようで、継続的な参加につながるケースも多くみられます」。一方で、運転免許を返納せざるを得なくなる高齢者もいる。自主返納した高齢者へのアンケートからは「さびしくなった」「どこにも行けなくなった」という回答があり、外出が減ったことで認知機能の低下がみられるケースもあるそうだ。このような実態も教室の開催を後押ししたという。現在、竹田市は 70 歳以上で自主返納した市民にタクシー臨時乗車券（または大分県バス会社共通回数券）１万円分を交付している。ただ、山間部に暮らしている人は病院へ１～２回通院したら終わってしまう。
「運転免許を返納しても、家族が送迎すればいいと思われるかもしれませんが、独居高齢者や高齢者夫婦の世帯が多いため対応できる家族もなく、家族がいても、その家族にも事情があって常に対応できないというのが現実です。運転できることで、人と接する機会が増え、それが楽しみになり、心身の健康の維持につながるので、少しでも長く安全運転を続けていただけるようサポートしていきたいと思っています」と坂本さんは話す。
竹田市では、これまで年１～２回だった教室の開催を 2023 年度は増やすことを検討している。

Safety Info. インフォメーション

第 52 回全国白バイ安全運転競技大会開催 白バイ隊員の精鋭が様々な競技で熱戦を展開

昨年 10 月８日から 10 日にかけて、自動車安全運転センター安全運転中央研修所（茨城県ひたちなか市）で第 52 回全国白バイ安全運転競技大会（主催：警察庁）が開催された。
この大会は、全国の白バイ隊員の安全運転技能の向上、士気の高揚及び隊員相互の融和団結を図ることを目的として、1969 年より実施されており、Honda は第１回大会より審判領域や車両整備で協力している。2021 年に続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から無観客で行われた。
今回は 44 都道府県警察及び皇宮警察から、女性隊員 49 名を含む 191 名の選手が参加。トライアル走行操縦競技、バランス走行操縦競技、不整地走行操縦競技、傾斜走行操縦（スラローム）競技の計４種目（女性の部はバランス走行操縦競技と傾斜走行操縦競技の計２種目）によって熱戦が繰り広げられた。

不整地走行操縦競技

傾斜走行操縦（スラローム）競技（女性の部）

傾斜走行操縦（スラローム）競技（男性の部）

主な結果
●団体の部
（第１部・８都府県警察）
第１位／警視庁
第２位／茨城県
第３位／兵庫県
（第２部・36 道府県警察・皇宮警察）
第１位／愛媛県
第２位／静岡県
第３位／岡山県
●個人競技の部
（男性の部）第１位／中川昂大（愛媛県）
（女性の部）第１位／黒崎琴己（茨城県）

閉会式では各部の入賞者が表彰された